

巻 頭 言

－センターの目指す方向－

機器分析評価センター長 内藤 晶

昨年4月より機器分析評価センター長になって1年になろうとしている。この間、ようやくセンターで行う業務について1年間のサイクルを経験したところである。機器分析評価センターには多くの先端的分析機器が設置されており、学内共同利用施設として学生および教職員が研究の目的で機器を利用している。したがって、センターは利用者がよいデータを出せるように常に装置の維持管理に心がけていることはいままでの間でもない。特に最近では機器の性能が良くなり、使いやすくなってよいデータが得られるように思える一方、機器は多機能で高価になり1個人や1研究室でこのような機器を購入することは年々難しくなっている。センターでは、このような高価で共通性の高い機器をセンター内に設置して、共同利用機器として利用者の要求に応えられるように心がけている。幸い今年度には補正予算により多くの先端機器の導入が可能になった。横山前センター長が前号で書いておられるように、何年にもわたって更新がかなわなかった機器が今年度の補正予算であっさり導入が可能になったことはセンターにとって大変嬉しいことである。この機器の選定や導入の準備がセンター長としての最初の仕事であった。恐らくは10年に1度あるかどうかの予算がついたと考えられるので、多くの利用者の要望がかなえられるように慎重に仕様策定委員会を中心に機器の選定を行った。機器の選定が進んでくると、次は機器の設置場所を整えることが問題になってきた。これだけの機器が導入されると電源容量も不足することが判明し、電源設備の整備等にも多くの予算が必要となってきた。幸い学長裁量経費や産学連携推進本部からも財政の援助をしていただくことができ、現時点では全ての機器の設置が今年度中に完了する予定である。

この様にして導入された機器を多くの利用者に有効に利用してもらうことが次の段階で重要になってくる。センターではこれらの機器の維持管理に務め、使用法の講習会を開催してこの新しい機器の利用を促進していきたいと考えている。そしてセンターが将来目指す方向はこれらの機器の有効利用を促進するために必要な情報を整理して広く公開することであろう。さらにその先にはセンター内の機器のみならず大学に点在している多くの共同利用機器についても有効利用が図れるように全学の共通機器のセンターとして情報を把握して発信することも目指す方向であると考えている。さらに、学内のみならず大学間、大学以外の企業の研究の支援や連携研究に役立てることもセンターの目指す方向と考えている。このためのデータベースの構築や公開のためのWEBシステムの構築を開始したところである。

このように今年度はセンターの活動は新規・更新機器の導入に始まり、センターの将来に向かって大きく動き出した年であったという認識を持っている。この動きの方向が利用者にとって好ましい方向になるよう慎重に先を見つめてセンターの目指す方向を決めていきたいと考えている。